



## サヨナラカイチ

今津教室の平下博喜です。来年度から大阪市の教諭として働くことになり今年度いっぱい開智総合学院を辞めるということで記事を書かせていただくことになりました。2017年3月から働きだして今年でもう6年目です。どの思い出を書こうかと悩みましたがせっかくなので1年目からの思い出を振り返ってみたいと思います。

### 1年目

最初の年は関目教室と今福教室で働いていました。関目教室の思い出としてはとにかく教えることの楽しさを知り大学より塾での仕事に力を入れていました(通称小幡化現象)。またしょっちゅうご飯に連れて行ってくださりかなり太りました(笑)。今福教室では「川西ドライビングスクール」という名の川西先生の自家用車をみんなが交代で運転をするというスリルを味わわせられたり、熊谷(真)先生と京橋のラーメン屋に言ったり忙しく楽しい生活を送っていました。

### 2年目

2年目は関目教室と今福教室と今津教室で働いていました。関目教室で1番覚えているのは中学2年生特進クラス(現在高校3年生)の数学の授業での出来事です。正直1年目は右も左もわからなかったのとにかく目の前のことを頑張っていました。2年目になると余裕も出てきて「点数」にこだわらなくなりました。毎授業、冒頭にやる気を出してもらったための話をしたり、休みの日も対策プリントを作成したりしてなんとか点数をとらせてやりたいと頑張っていました。そんな時生徒達に「先生頑張りが過ぎやろ(笑)私ら点数とらなあかんくなるやん、私数学苦手やのに(笑)」と言われ、そんな私を見かねたのかいつも以上に勉強してくれました。そんなこんなでテストが返却され点を見ると100点はいるし、高得点続出！うれしかったです。この学年は半生しか見られませんが今でもカイチ予備校に顔を出すと話しかけてくれます。今福教室では中2理科を担当していました。点数を少しでも上げるために自分で小テストを作成し使用していました。まさかここまでとは思うほど点数が上がりました。理科の

点数が上がったと笑顔を見せてくれたのを今でも覚えています。次年度は今津教室だけになったのですが、入試直前に激励に行くときみんな喜んでくれて「赤本にサインください」と長蛇の列ができたのを覚えています。今津教室では中学3年生を見ていました。この学年の話は2019年の6月号に書いています。すべてあの記事に書いてありますのでぜひご覧ください。この年は「点数」をあげるノウハウと努力は報われるということを学べた年でした。余談ですが、忘年会で、同級生で当時同じ教室で働いていた女性の先生と歌を歌ったところジュニア先生に付き合っているという謎の嘘をつかれ、大変でした(笑)。今でも怒っています！

### 3年目

3年目からは今津教室のみになりました。この年は中学3年生はとにかく元気いっぱいでした。書くときりがなくらい「いらん事」をするので本当に手を焼かされました。ほぼこの思いだけありません(笑)。ただ、勉強はよく頑張っていましたし、何よりこの学年の生徒が卒業後最も多く顔を出しに来てくれていると思います。今思えば1番接しやすい学年なのかもしれません。

### 4年目

この年の中学3年生が最も私のことを慕ってくれていたと自分では思っています。受験前にはたくさんの生徒が「点数が上がらないや、受験が心配だ」と相談しに来てくれました。それだけ認められているのかなと嬉しく思ったのを覚えています。毎年公立入試の直前、生徒には「もう自分らの顔を見て済むと思うと嬉しいわ！」と言っていますが実はめっちゃ寂しいです。特にこの年は本当に泣きそうになりました。それほど思い入れが大きかったのかなと思います。

### 5年目

中学3年生のストイックさには驚きました。集中すると何を寄せ付けないオーラをまとっていました。まさにつけ入る隙の無い生徒達でした。ちなみにこのとき既に2年生は3年生に負けなくらいの勉強をしていました。すごかったです。

### 6年目

中学3年生：今までが一番頑張った学年だと思えます。この学年は1年生の時に新型コロナウイルスの影響でオンライン授業になり学習習慣をつけてあげることができず、1年生の

平下 博喜(今津教室)

間はなかなか点数が伸びませんでした。そこで「2年生からは頑張ってもらいます！」と宣言し2年生の1学期から今に至るまで頑張ってくれています。おかげでかなり点数が上がりました。今だから言えますが「こんなにもよう頑張るなあ、自分やったら無理やわ」と思うときがたくさんあります(笑)。もう何もやり残したことはありません。安心して受験してきてください。ちなみに皆さんが私の最後の卒業生になります。悔いのない最終年にしてくれてありがとう！  
中学2年生：この学年は小さいころから知っている生徒がたくさんいます。良くも悪くも素直なまま大きくなったと思います(笑)。残念ながら最後まで見れないのがすごく悲しいです。来年はいないのでなんとか今年のためになることをしようと思い指導していたのでしんどかったかもしれませんが。ごめんなさい。でも本当にみんなが少しでも点数が上がればと思い頑張っていたことをわかってくれたらうれしいです。来年は受験があると思います。今よりきついこともあると思いますが頑張ってください！

中学1年生：賢いうえに努力できる学年だと思っています。その成果は点数にもあらわれており、実は他教室の先生によく自慢しています。そして授業中の唐突なしょうもない話にも反応してくれてとてもやりやすかったです。楽しかったです。来年以降は塾にはいませんがずっと応援しています！  
小学生：みんなの無邪気な笑顔にいつも元気をもらっていました。ほんまに高学年か？と疑うくらい純粋さが残っていました。その純粋さと笑顔を忘れずまっすぐ進み続けてください。今後の活躍を期待しています。  
バスケ生：授業後におこなうゲームを見ていて、自分が自分、ではなくみんなわからないことがあれば声をかけたりゆずったり相手のことを考えることのできる優しい生徒達だと思いました。その優しさを忘れないようにしてください。

振り返ってみて、たくさんの出来事がありました。「楽しかったなあ」の一言に尽きます。これは開智総合学院の方々何より出会えた生徒の皆さんのおかげです。すばらしい思い出を作っていたいただき本当にありがとうございました。またどこかでお会いする機会があればその際はよろしくお願ひいたします。



## 川西のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

川西 久志 (今福・古市教室)

### ～今あるものを工夫して使うことの大切さ～

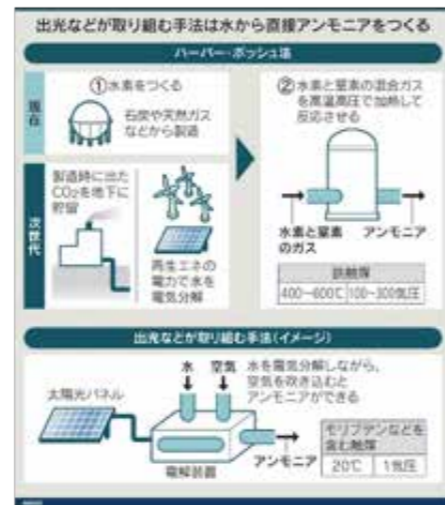
2月に入りすっかり寒くなってしまいました。みなさん体調に気を付けて暖かくして寝るようにしてくださいね。

ある日、読むのをさぼっていた(笑)新聞を週末にまとめて読んでみると、すごいなと思ったSDGs(持続可能な開発目標)という意味で、今回の内容は温暖化対策の中のグリーンエネルギーの話です)の記事が目に入ったので、内容をお伝えたいと思います。それは今声高に叫ばれている火力発電の脱炭素への工夫についてです。

現在火力発電は、原油を主に燃料としているので、かなりのCO2を排出している状況です。だからグリーンエネルギーとして太陽光発電や風力発電が活躍していることをご存じの方は多いと思います。なぜ簡単に置き換わらないかというと、風力や太陽光は出力が不安定で、必要な時に必要な量の電気が送れない(安定供給といいます)可能性があるからです。さらにまだ普及していく途上なので、施設の量が不十分とい

う現状があります。しかし従来の火力発電施設を使用できるクリーンな燃料があるとしたらいかがでしょうか？新たなエネルギーとして注目されているのが「アンモニア」です。  
アンモニアは原油と違い燃えにくいという性質があり、コストがかかるので今まで避けられてきた燃料ですが、環境への対応から何とかして使えないかとエネルギー関連各社が研究を行い、作り上げたアイデアは太陽光発電を利用し水を電気分解させながらアンモニアを作るという製造過程から地球環境への配慮がなされたものです(図の下側)。この方法は是非はともかく、「従来の施設をそのまま使用することが可能でしかも地球環境に配慮する」という発想で工夫を続けている人達がいる、実験と検証を繰り返して最適解を出そうとしていることに感じました。

今あるものを工夫して使うのなら、一から作るより効率的ですし、資源の面からもSDGsの考え方にも叶っています。



▲アンモニアの生成方法 日経新聞より引用

「今あるものを工夫して活用する」自分の仕事への取り組みの上でもとても参考になる考え方だと思いました。

## カイチからのお知らせ

- 2月4日(土)・18日(土)・25日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4～新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
- 2月10日(金)は私立高校入試です。皆さんの健闘を祈っています。
- 2月12日(日)は珠算上級検定です。
- 2月19日(日)は珠算段位検定です。みんなしっかり練習しよう。
- 3月10日(金)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月20日(月)です。受験生のみんなあと少し。最後の最後まで頑張ろう。
- 3月11日(土)より新年度授業がスタートします。

## みんな、私立受験お疲れ様 いよいよ公立入試。 合否を分けるのは「諦めない心」



高木 秀章(塾長)

相変わらずコロナウイルスが猛威をふるっています。ニュースなどの発表では感染者数の減少が報じられていますが、私達の実感としては油断できないと感じています。世間的には徐々に「風邪」という認識になっていますが、受験生とその家族は濃厚接触の5日間の自宅待機や1週間の療養が決められている以上、感染するわけにはいきません。むしろ世間が緩んでいる分、神経質にならざるをえません。その上、インフルエンザの流行。みなさん、百万回聞いていることと思いますが、手洗い・うがい・マスク着用の感染予防はくれぐれも徹底してください。

このGROWINGが皆さんの所に届く頃には私立高校入試が終わり、結果が出ている頃だと思います。予定通りの結果にほっと一息つく人もいれば、希望しているコースに合格できずに回し合格になった人や、不合格で1.5次試験の準備を大急ぎでしている人もいるかもしれません。

「なぜ自分だけ・・・」と落ち込む気持ちや、腹立たしい気持ちがあると思います。次の受験が待ち構えています。とにかく、先生達と落ち着いて、問題点を整理し、1つ1つ潰していきましょう。落ち込んでも、イライラしても現実が変わりません。現実を変える力があるのは自分と向き合い、粛々と努力する姿勢だけです。

私立に合格した人達も1ヶ月後には競争率が1.2倍～1.6倍、20%～30%の受験生が不合格になる厳しい公立入試を控えています。

各教室では毎週土曜日に公立高校の過去問題で大手予想模試が実施され、翌月曜日には各自の内申が考慮された状態で合格ラインとの点数差が発表されます。もしかすると周りはほとんど合格点が取れただけ自分だけが取り残されるかも知れない。不安と焦りの中で心が揺れ動きます。

誰もそんな思いはしたくないかもしれませんが、でも、不安を感じるのは現実を見つめている証拠です。合格点と今の自分との実力差を感じているのです。そんな時は落ち着いて、その差をどのように埋めれば良いのか、具体的にどのような努力をするべきなのかを考えましょう。

合計の得点差が20点なら1教科あたりは4点。つまり各教科の正答数を1.2増やせば合格点に到達できます。時間配分を整理し、見直し箇所を事前に決めてケアレスミス減らすだけでも埋められるかも知れません。もしかしたら、暗記の



# Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

# エニグマの指導 ～論理を鍛え上げる～

富田 昌史 (エニグマ)

エニグマは、東大・京大をはじめとした、難関大受験専門の学習塾としてスタートして4年がたちました。中高一貫校の中学生と、難関大を目指す高校生の合計47人の生徒が所属しています。教室が3つと自習スペースがあるだけの小さな教室なのですが、1クラス最大6名の少人数授業の中で、生徒達はのびやかに力を伸ばしています。



◀ 恒例の「インコ例文?」を使った授業

学校帰りに、多くの生徒が自習に来て質問してくれます。▶



### エニグマでの指導

エニグマでは、一般的な中高一貫校の進度と同じく、中学1年から2年半前までの中学範囲が終了し、その後、難関大数学・英語講座がスタートします。この講座で重要視しているのは何よりも「思考力を高める」こと。

<p>中学で大学受験に必要な英語事項を短時間で学習し、高1で受験範囲を、高2で入試範囲に近づけます。大量の演習を通して、効率的に重要事項の理解を促します。</p> <p>中1 中学英語基礎 中2 中学英語基礎 中3 高校英語 高1 英会話・英作文 高2 英語レベルアップ 高3 入試演習</p>	<p>中学範囲については、高校1年で学習を終了し、中学から高校範囲に入ります。中学の1科目は、大量の演習を通して理解を深め、無理なく重要事項の理解を促します。</p> <p>中1 中学数学基礎・中学数学基礎 中2 中学数学基礎・数学A(1)基礎 中3 数学B(1)基礎 高1 数学A(2)基礎 高2 数学B(2)・関数とグラフ基礎 高3 入試演習</p>
---	---

#### ▲ 余裕を持った大学受験が可能カリキュラム

難関大学の入試問題は、どうしても暗記型の学習をしている人には太刀打ちができません。エニグマでは、通常より短い時間で単元別の学習を終えることで、早くから大学入試のための手法を用いた演習を始めています。その中で、重視しているのは2つのことです。1つは、論理的に考える訓練をすること。2つめは、自分で考え、「なるほど!」と発見的に理解できるように促すことです。そうすることで、本質に迫る深い理解へと導いていきます。

### 中高一貫校の強みをいかすには

中高一貫校での数学・英語の進度は、一般的にとっても速いものとなります。その理由は、数学・英語の演習の時間を多くとるためと同時に、もう一つ大切な理由があります。それは、高3の受験期に理系は理科2教科、文系は社会(地歴)・国語(古典)に時間と労力をかけるためです。現役生が浪人生と差をつけられたまま受験を迎えてしまうことが多いこれらの教科は、英数に比べて、比較的短期間で勉強した成果が表れやすく、点数に結びつきやすい教科だからです。一方で、1問1問の配点が高く差がつきやすい数学や、話の背景の読み取りと記述力も求められる英語が、合否に直結する教科であることは間違いありません。それゆえ、早い段階で数学・英語のある程度のレベルまで仕上げておくことが、大学受験をトータルで考えると、大変優れた戦略となります。

しかし同時に生徒は、速い進度に追いつくために、どうしても「論理的な思考」より「パターン化して覚える」という学習に走りがちになり、膨大に覚えたパターンを短期間で忘れてしまうことがあります。また、生徒の論理的な思考を確認するには、直接問答や答案添削が必要ですが、大人数の学校授業や定期テストでは採点の大変さもあり、論理能力を測ることは難しくなります。

### 論理を身につけ、アウトプットする

昨今の大学入試、特に共通テストでは、  
・多面的に情報を処理し、論理的に再構築する  
・他者の論理や概念を読み解く  
といった、論理や概念といった点も重要視されつつありますが、苦戦する受験生も多いです。

そのためエニグマの授業では、どの分野を学ぶ際にも、  
・「問題の解法を覚える」ということではなく  
・「問題を通して、概念を理解する」ということを目標に、常に授業を組み立てています。初めてみる問題(事柄)に対処できるかどうかは、概念を表面的にはなく、どれだけ深く理解できているかにかかっているといっても過言ではありません。そのため、特に高1以降の演習講義では、入試のための必須手法

を用いながら、「論理的に考える訓練」を適切な誘導の中で、徹底的に行います。

ただ、「応用力」「思考力」は、(残念ながら!)簡単に、誰かに伝授されて身につく類のものではなく、自力で考えることでしか思考力はつきません。そのため、エニグマのテキストでは、一つの単元の問題が何気なく並んでいるように見えても、その順番と構成に意図が隅々まで組み込まれています。特に数学では、初めの問題の論理を理解できれば、時には最後の思いもかけない難度の発展問題を自力で解けるように計算しつくされた、灘の先生らしいものになっています。

このように、自力で考え「なるほど!」と発見的に理解ができるよう導くことで、論理のおもしろさを実感させることができます。そして、考える力を身につけるとともに、センスを磨いてもらいたいと考えています。

### ついに大学入試の時期～最後の追い込み～

この記事を書いているのは、ちょうど1月の終わりですが、国公立大入試まで1か月を切りました。いよいよ高3生が本格的な過去問演習に入っています。それぞれ仕上がってきている段階なので、「過去問の質問には問題の背景も含めて、即座に教えてもらえますよ」という期待を込めて質問しに来てくれます。こちらも過去問の解説を短時間で完璧にすることで、ギリギリの勝負をしていく受験生のモチベーションを保ってあげています。また同時に、答案添削をしながらそれぞれ論理的な答案を書けるようになってきているのを見ると、頼もしく思います。最後の1か月、生徒と共に、私達も全力で寄り添っていきます。



「みんな、最後までがんばって!」

# Education



## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

# もうすぐ公立高校入試 「理想の未来」に向けて準備をしよう!

井上 陽平 (関目教室)

2月に入り、寒さが一段と深まってまいりました。中学3年生の方は、初めての入試である私立高校入試を終え、本命の公立高校入試に向けて、士気が高まっていることでしょう。

開智総合学院では、受験1ヶ月前の毎週土曜日に「公立大予想模試」を実施しています。実際の公立入試と同じ時間に、本番さながらの雰囲気の中で問題を解き、その日のうちに採点され、志望校への合否が発表されます。自分の実力や現状がはっきりと示される大予想模試の結果に、受験生は一喜一憂。焦る気持ちや不安になる気持ちが膨らんでいきます。そのような中で、ひたすらに問題を解き、先生に質問をしている受験生が多くみられます。

そんな「今」に集中している受験生に、少しの時間でも「どんな状態で入試本番を迎えられたらよいのか。」について考えてほしいと思います。そのような「理想の未来」から逆算して、「今」何をすべきかを考えてみましょう。

### ○弱点を克服して入試に臨む

入試本番に向けて一番考えることは、少しでも高得点をとることとおもいます。ただ、テストの本番で全ての問題が解ける、絶対にミスをしないうことは、不可能に近いですね。そこで考えるべきは、明確な目標点を設定し、その目標点をとるために何をすべきかを決め、実行することです。

目標点について、まずは大予想模試の結果にある合格基準点を目指しましょう。張り出された結果には、「合格まであと〇点」と記載されています。合格基準点との差を埋めるために、すべきことを考えましょう。合格基準点に達している生徒も、本番の緊張を考えれば油断できません。次は+10点、+20点と、少しずつ目標点を上げて、万全の

状態で挑みたいですね。

目標点をとるために、まずすべきことは、わかる問題と、そうでない問題の仕分けです。自分の答案・解説をじっくり読み込み、「なるほど」と解き方に納得できれば、わかる問題。解説を読んでも理解できなければ、今の実力ではわからない問題です。この仕分け作業に自信がない人は、塾の先生に手伝ってもらいましょう。

仕分けができれば、まずはわかる問題の解き直しです。その際、なぜ正解できなかったのかを明確にしましょう。計算ミス、単語のスペルミス、時間配分、焦りなど、様々な原因が考えられます。自分のミスの傾向を把握し、次の模試では少しでも得点源を逃さないようにしましょう。

わからない問題を、限られた期間で少しでも多く克服できるかが、入試直前期の勉強の肝です。数学の関数問題、英語の長文問題、国語の作文問題などは、類題を解き、問題の解き方を身につけていきます。漢字や英文法、社会などの知識問題は、教科書・塾のテキストを見直し、その単元の問題を解きましょう。どの問題をとれるようになるか、そのために何をすべきかは、塾の先生に積極的にアドバイスをもらってください。

やるべきことが決まったら、いつ、どこで、どれだけの勉強をするのか、スケジュールを立てます。特に、勉強の開始時間と場所を決めておくことは重要です。「〇時には塾の自習室で□□を始める」といった具合です。自分のスイッチが入りやすい時間、集中しやすい場所で勉強しましょう。

模試→答案分析→対策を反復して行い、大予想模試を重ねるごとに目標点に近づくよう、努力を積み重ねていきましょう。



### ○最高のコンディションで入試に臨む

受験生のみなさんは、今の直前期だけでなく、1年、いや3年間かけて入試に向けた準備をしてきました。しかし、その実力を発揮すべき入試はたったの1日、約6時間です。この1日は最高のコンディションで試験に臨みたいですね。コロナやインフルエンザだけでなく、風邪をひかないためにも、手洗いうがい、アルコール消毒、マスクの着用は徹底しましょう。

体調管理の基本は、食事・睡眠・運動です。食事はご家族の方に手伝ってもらいながら、適度な時間に、しっかりと食べましょう。運動は、通学・通塾、体育の時間だけでなく、日曜日に少し散歩をするのもおすすめです。

受験生に一番気を付けてほしいのは、睡眠です。忙しい毎日の中で、真っ先に削られがちなのが睡眠時間ですが、毎日の勉強・試験本番で最高のパフォーマンスを発揮するためにも一番気をつかうべきは良い睡眠なのです。

夜寝る時間は、遅くとも0時までには寝ましょう。起きる時間として提案したいのは、朝6時です。人間の脳がもっとも活発に働くのが、起床3時間後だとされています。入試1教科目の開始時間が9時10分。その3時間前に起きる習慣がついていけば、ベストであると言えます。

体調管理とは別に、ご家族の方とのコミュニケーションも大切にしてください。受験期に大変なのは受験生だけでなく、その家族も同様です。日頃の些細なことでも「ありがとう」を伝えるよう意識してみてください。大変な時期にこそ、身近な人との関わりを大切にしましょう。

以上のように、「理想の未来」のためにできることを書いてみましたが、どれだけ準備を重ねても、本番は緊張するし、予期せぬ事も起こります。入試に絶対はありません。しかし、みなさんがたった1日の試験に向けて、本気で準備したことは事実です。試験を受けるその日だけは、胸を張って堂々と臨んでください。4月からの「理想の高校生活」のためにも。私たちが、最後までみなさんを全力でサポートします。

